

令和7年度(2025年度)建築作品賞

50周年特別賞も設定

令和7年度の建築作品賞は、最優秀賞に「里山辺の家」(設計:HAL設計室)、「北斎館デジタルアートギャラリー」(ガラリー) (設計:宮本忠長建築設計事務所)、「川上村役場交流防災センター」(設計:エーシーエ設計)の3点を選び、今回、協会創設50周年を記念した「50周年特別賞」には、3点の中から「里山辺の家」を選んだ。

優秀賞には「税理士法人飯田会計士屋」(設計:1級建築士事務所アトリエ・アースワーク)、「南信州ハートクリニック」(設計:小川原設計)、「Viiia Yoshino」(設計:倉橋建築計画事務所)、「箕輪町防災交流施設」(2級建築士事務所アーキディアック)の4点を選び、会長賞として「漆の里やきさわらの家」(設計:川島宏一郎建築設計事務所)の1点を選んだ。

した建築作品を対象に募集。16点の応募があった。5月9日に開催された選考委員会には土本俊和信州大学工学部教授を委員長に、伊藤公徳会長と土屋正明、松村隆一、渡邊徹の副会長3氏、吉田賢司常任理事の6人で審査を行った。

五つの視点で審査

審査にあたっては、「意匠、構造、機能上優れ、地球環境維持へ配慮がされていること」「法令が遵守され、防災上、安全上、維持管理上配慮されていること」「ユニバーサルデザインに十分配慮されていること」「周辺地域の景観形成やまちづくりに配慮されていること」「その他、地域や時代の要請に応える新たな視点等について配慮されていること」の五つの視点を踏まえ、決定した。



飯田市 南信州ハートクリニック



地域密着型医療提供を目指す

敷地は飯田市上郷黒田の県道15号線原交差点角地に接し、飯田市街を東に望む開けた場所にあり。計画は患者さん中心の診療をコンセプトとし、安心して診療を受けられるよう、視認性の高い平屋建てとしました。心臓病や循環器疾患のリハビリテーションを専門に行うための設備を設け、地域で唯一の下肢静脈瘤治療が可能クリニックとして、地域の医療に貢献することを目指しております。

動線計画においては、待合・診療動線、発熱外来動線、処置・検査・手術・スタッフ動線をクリニックスタッフ全員から意見を集約し配置しました。限られた敷地での計画は、コンパクトに納まる中廊下型プランを採用、ハイサイドライトにより自然光を導入する空間構成とし、医療施設と感じさせない居心地の良い開放感をもたらしています。内装は地元自然素材をできる限り使用し、患者さん中心の地域密着型クリニックを追求しました。ハイブリット高気密高断熱(外断熱+充填断熱)を設け、ハイスペックな省エネルギー建築性能を実現しています。



■建設地:飯田市上郷黒田779-1
■構造規模:木造1階建て、延べ335.57㎡
■竣工:2023年12月

■設計
OGAWARA SEKKEI ARCHITECTS & ENGINEERS
株式会社 小川原設計 代表取締役 小川原 吉宏
安曇野市豊科4235-8 TEL0263-72-4683

■施工
幸せを育む家づくりのお手伝い
株式会社 林枝木店
松川町元大島1660 TEL0265-36-3151

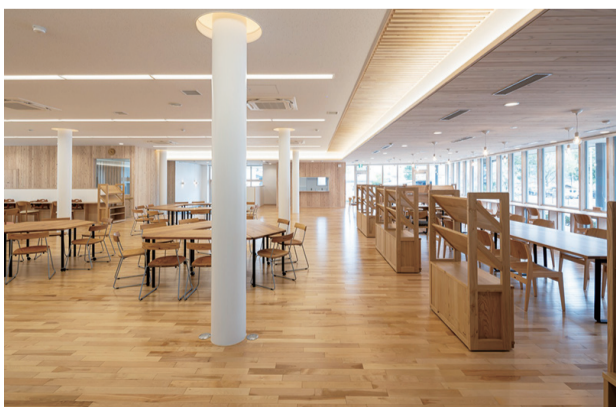


箕輪町 箕輪町防災交流施設「みのわBASE」



近年、2011年の東日本大震災や2024年の能登半島地震など、各地で様々な災害が起こっており、社会で防災への関心が高まっている。

箕輪町防災交流施設は、災害時も平時と同様に建物が見える様、LPG非常発電設備や太陽光発電+蓄電池設備、雑排水を利用できる受水槽を整備し、100人程度の避難者が3日間生活できる防災拠点施設とした。主出入口前には大きなキャノピーを設けイベント等で利用し、駅・教育施設等の通行がある北側道路に面して、出入口・カフェコーナーを配し、寄り付きやすくした。1階は、木をふんだんに使って温かみのある開放的な空間とし、子供から高齢者まで多世代が集い、誰もが気楽に利用できる居場所とした。外壁の透過性を高め地域に開くことで、日常利用が施設の使いこなしや町民の協力関係を育み、災害時の備えに自然と繋がる。2階は、1階に比べ静かな環境を確保し、学習・仕事をするのに最適な場所とした。2階北東側の壁面をセットバックさせ、隣地への日照確保と圧迫感を低減し、勾配屋根とすることで親しみやすい外観とした。外皮を高断熱化し、エネルギー消費量を減らし、災害時にも少ないエネルギーでの運用を可能とした。また、持続可能な建築の指標となるNearlyZEBを実現している。



■建設地:箕輪町大字中箕輪9503、9499-4、9502-1
■施設規模:S造2階建て、延べ1085.92㎡
■竣工日:2024年3月

■設計
株式会社 アーキディアック
Architects Architect & Associates, Inc. 一級建築士事務所 建築 都市 環境 情報
代表取締役 児野 哲郎
松本市島立1132-35 TEL0263-47-7766

■施工
株式会社 浅川建設工業株式会社
代表取締役社長 浅川 孝二
上伊那郡箕輪町中箕輪11363-1 TEL0265-79-2218



安曇野市 Villa Yoshino



Villa Yoshinoは北アルプス山麓の森に建つ貸別荘。

「森の自然をダイレクトに感じる空間・シンプルに過ごせる居場所」そして「一目見ただけで誰もが行ってみたいくなる場所」づくりを目指した。森の景観を生かすため、各棟間のプライバシーを確保しながら樹木伐採を最小限として建物配置。森の中の集落のような風景作りを意識した。「シンプルに屋根だけで空間をつくる」ため、米松集成材の正三角形フレームを1.8mピッチで5スパン並べて母屋と構造用合板で一体化。内部を一室空間とした。森に佇む三角屋根は、存在感と解放感がありながら包み込まれる安心感の感じられる居心地の良い空間となっている。三角屋根の下はリビング、小さなキッチン、寝室となるロフト、中房温泉からの源泉かけ流しの浴室をコンパクトにまとめ、テラスにはBBQピットを造り付けた。家族4人がちょうどよく快適に過ごせるサイズを基本としながら、遊び心溢れる全3タイプを用意して週末住宅、ワーケーションやグループ利用等様々なニーズに対応。リピートしたくなる空間づくりを意図した。三角屋根のVilla Yoshinoは、シンプルな形状故に構造強度が高く断熱性能・遮音性能・メンテナンス性に優れる等、合理的・機能的で環境負荷の少ない建物となっている。森の中のVilla Yoshinoで過ごす時間が、新たなライフスタイルを見つけるきっかけになれば望外の喜びである。



■建設地:安曇野市穂高有明8969番1
■施設規模:木造2階建て、286.76㎡(計5棟合計)
■竣工日:2022年4月

■設計・監理
株式会社 倉橋建築計画事務所
代表取締役 小宮山 吉登
松本市野溝木1-1-30 TEL0263-26-6765

■施工
原田建築工房
Harada Construction Atelier Corp.
代表取締役 原田 静雄
安曇野市明科中川手4181 TEL0263-62-6621

総評

建築に体现された信州らしさ

土本 俊和 (信州大学工学部教授)

コロナ禍は、設計や施工を止めてしまふほどの大打撃を建築に与えなかった。しかし、コロナ禍は建築にとつて明らかに節目であった。それ以前、高度成長期とバブル期の破壊が前世紀後半あり、今世紀になって起こった姉歯事件が建築界を大混乱に陥れた。

前々世紀後半から前世紀前半にかけて、新しい材料と技術が現れ、それに基づく建築が普遍的な知識として世界に共有されるだろうと想定していたモダニズムの論理は、日本ではその延長上に高度成長期の破壊とバブル期の破壊を招いた。守銭奴らによる理念を見失った建築行為の一部は開き直った不道徳として世に知られるに至った。人為的なこのような失落と前後して、大規模な災害が日本列島を襲った。前世紀末に阪神・淡路大震災が、今世紀に入ってから東日本大震災が日本列島を襲った。高度成長期やバブル期には誰も想定していなかったこれらの災害は、人の命の大切さという原点に人々を立ち返らせたことだろう。

その後、コロナ禍が世界中の人々の諸々の活動を封じ込めた。コロナ禍の間に過ぎていった静かな時間帯の中で、人々は過去を振り返ったことだろう。おそらく前世紀前半の戦争から振り返った方々も少なからずおられたことであろう。戦争が起きたのは、コロナ禍という節目の後であった。さらにまた別の戦争が起きた。

現在、高度成長期のような、独りよがりの創造のための都市・建築の破壊が容認されないどころか、容赦のない暴力的な破壊が続いており、無差別な殺戮を止めることができない。人類は、個々の人々の内面に倫理を再び樹立する必要がある。他方、樹立されるべき倫理に関わらず、人類は大自然からの威力に無力ではないが、その最大の威力から身を守り切ることはできない。昨年(2024年)の正月には大地震が能登半島を襲った。

今、我々は以上のような状況の中にある。この状況は、高度成長期の状況と大差がある。しかし、人類は核戦争を回避することができるといえる。他方、日本列島は観光で外国から来られた方々で溢れている。日本列島は別の新しい眼で見られている。信州から活動をはじめたアメリカ合衆国に渡り評価を得てから帰国した草間彌生(1929年)は今も創作活動を続けている。彼女の作品の一部は松本市立美術館で展示されている。たまたま彼女の展示ブースを訪れたら、そこは外国の方々がばかりであった。草間彌生への眼差しは海外で得られた。海外で得られたその眼差しは、日本に作品があっても絶えるどころか、若返っている。眼差しが更新されているのである。

今回たくさん応募いただいた作品の計16件は無論すべてがこの状況下にある。建築として表現された諸々のことから、あるいは、建築として表現された一断片から、この状況をどのように受け入れていくか、あるいは、どのように解釈しているか、そして何が今できるのかということとを真摯に模索されておられる姿が伝わる。それは作品からはっきりとわかることであった。人間は人間としての尊厳を保つために、自らの存在を1センチメートル高める必要がある。

建築には人間の尊厳のために一定の質が求められる。応募された建築に体现された質は信州らしさを保っていた。山並みとの調和、若い人や若い人への眼差し、光、風、木々など。

著しく厳しい状況下で新しい時代を創り上げることがままならないとしても、この状況下の現実を後世に伝えることができる。今此処での存在を少しばかり高めようとする。応募された建築は全部が何かを後世に伝えようとしていたし、建築に即して私たちの存在を高めようとしていた。



小布施町 北斎館デジタルアートギャラリー「ガラリー」



北斎館の新たな情報発信拠点として整備されたカフェ併設のアートギャラリーです。1976年に北斎館が開館してから50年が経ち、現在まで続く「小布施町並修景事業」の一環として計画しました。町の方や観光で訪れる人々が気軽にアートと触れ合い、日常の延長線上で芸術を楽しめる場として、「まち」とつながる新たな接点を生み出す役割を果たしています。

建築デザインは、隣接する北斎館や修景地区との景観調和を重視し、北斎館と同じ寄棟屋根(5寸勾配)を採用。外壁の色調も北斎館に合わせた落ち着いた色にし、歴史的町並みに溶け込むことを目指しました。

1階にはカフェスペースを設け、鉄骨柱を用いて広く深い軒下空間を確保。内外を柔らかくつなげ、訪れる人々が気軽に滞在できる空間を提供します。

2階のギャラリースペースは、小布施にゆかりのあるアーティスト作品や北斎の作品を現代にアレンジした作品を展示・販売する場として計画し、広場に面した大きな木製建具は町の風景とつながり、開放感を生み出しています。

夜間の照明計画では、建物を行燈のようにやわらかく浮かび上がらせる間接照明を採用。暗い町並みに潤いと安心感をもたらす、省エネルギーにも貢献しています。外構計画では、敷地内の既存樹木を生かし、東町駐車場から続く石畳の歩行者動線と調和する植栽帯を整備。小布施の町並みの魅力を高める役割を果たしています。

■建設地: 上高井郡小布施町大字小布施470
■構造規模: 木造2階建て・延べ136.40㎡
■竣工: 2022年12月



■設計
宮本忠長建築設計事務所
TADANAGA・MIYAMOTO ARCHITECT & ASSOCIATES
長野市柳原1875-1 TEL:026-241-5510

■施工
北野建設株式会社
長野市東町524 TEL:026-233-5111



川上村 川上村役場交流防災センター



本計画は、老朽化した旧役場庁舎と公民館を統合し、防災拠点機能も備えた「川上村役場交流防災センター」として新たに整備したものです。川上村は千曲川源流域に位置し、標高が高く寒冷な高原気候が特徴で、日本一のレタス生産量を誇る自然豊かな村です。広大なレタス畑や八ヶ岳を背景とした農村風景、澄んだ空気が織りなす美しい星空など、川上村ならではの風土に着目し、設計にあたっては村民の誇りとなる施設を目指しました。交流防災センターと庁舎の各機能については、地域の風土をデザインモチーフとして取り入れ、村民が愛着を持てる空間づくりを心がけました。

建物は環境にも配慮し、日本で一番高い場所にある役場という特徴を踏まえ、夏場の冷涼な気候の活用と、冬場はマイナス20度にもなる厳しい寒さへの対策を講じZEB Readyを達成、BELS認証★5を取得しています。ユニバーサルデザインも心がけた設計により、人と環境に優しい施設を実現しました。

また、川上村特産の唐松材を軒天や内装にふんだんに使用し、豊かな山林の風土を建物にも表現しました。加えて、川上村唐松、根羽村杉、大桑村檜、三つの村の木材を取り入れ、村民ホールや村長室に多様な木の魅力を融合させ、森林資源を活かした地域交流の象徴とすることで、地域資源の循環、林業発展、次世代交流の持続可能性に寄与することを目指しています。本施設が様々な活動を育む地域の中心となること、未来へと続く村の風景と暮らしを支えるシンボルとなることを願っています。

■建設地: 南佐久郡川上村大字大深山525
■構造規模: 鉄骨造2階建て・延べ/3426.57㎡
■竣工: 2023年1月

■設計
ACA 株式会社 エーシーエ設計
取締役社長 小林 宣範
長野市柳原2360-4 TEL:026-296-8300 https://www.aca-sekkei.co.jp/

■施工
新津・畑八・黒澤特定建設工事共同企業体
株式会社 新津組 **畑八開発株式会社** **株式会社 黒澤組**



最優秀賞

松本市 里山辺の家



■建設地：松本市里山辺
■構造規模：木造2階建て・延べ141.49㎡
■竣工：2022年12月

周りを古い住宅に囲まれた住宅街に建っています。特に南の住宅は背が高く北側に大きな窓が開いており、西側には計画道路が予定されていて今後風景が一変することが分かっていました。周囲の視線を気にせず楽しめる庭を設け開放性とプライバシーを両立させることが目標となりました。既存のアルミ製車庫を南東隅に設け母屋を北側に寄せ玄関まで回廊を設置して目隠しの板を張り東側からの視線を防ぎ、西側には板塀を設置しましたが完全にはプライバシーを守りません。同時に樹木の植栽計画を立て深い緑に囲われた庭を作り上げました。

居間食堂にアルミ製の完全引き込みサッシを設置して大開口を確保し、窓の外に木製のテラスを設け深い軒を掛けました。住宅からの視線を防ぐとともに夏の日差しから守られた快適な半外部空間が出来ました。勿論冬の日差しは室内まで差し込みます。芝生貼りの庭に裸足のまま飛び出すことが出来、内部外部の隔りなく家族3人で楽しんでいます。特に気に入っているところは？という問いに「軒に守られたテラスです。ここでは、お酒やコーヒーを飲んで一息つく、ご飯やおやつを食べる、子供と遊ぶなど多くの楽しい時間を過ごすことが出来ます。

またリビングの窓から見える庭の景色が好きで、季節や時間によって変化する木々に癒されています。」と答えてくれました。機能的には高断熱性能と地域産材の利用によりカーボンニュートラルに貢献しています。

■設計

HAL 設計室
代表 荒井 洋
松本市開智1-5-13
TEL・FAX 0263-33-6186 Mail: arai@hal-net.jp

■施工



有限会社 **建築工房 時遊館**

代表取締役 箕輪 賢二

安曇野市三郷明盛1833-2

TEL0263-76-0140 FAX0263-76-0141 Mail: jiyuukan@amber.plala.or.jp

講評

◎最優秀賞・50周年記念特別賞

里山辺の家
(HAL設計室)

講評委員：吉田賢司

この建築物は、長野県松本市里山辺の住宅街に建つ住宅である。住宅に囲まれた環境で違和感なくそれでいて、さりげなく景観イメージを引き上げている点が高く評価できる。

道路側に住宅と車庫をそれぞれ敷地の端に配し、中間に回廊アプローチとすることによって、住人とのドラマをイメージさせるプロムナードのような仕掛けによって良い効果を与えている。回廊にある木製の板塀もセミパブリックな空間を豊かにさせつつ、それでいて囲いの役割も程よく果たしている。それぞれはシンプルでありつつ、配置と空間の結びつきが絶妙である。

リビングは、全面開放できる開口があり、中庭・テラス・内部空間を一体感のあるものになっている。それぞれの空間から、中庭・外部空間とも適切な距離感で繋がっているため、植物などの四季の移りや、来訪者の気配も程よく感じられるプラン。周囲環境・外部・内部それぞれにおいて、中間的な役割を果たす場を設けることでそれぞれを結びつけるものとして成立させている。その一つ、テラス(半外部空間)において前述の空間における居心地の良さが、手に取る様に理解できる。

柱・梁にスギ、天井材にカラマツと地域産材を利用し、建物全体に木材を絶妙なバランス良く配されている。断熱においても配慮され、大切にすべきことをきっちり押さえた未来に向けた指標となる建物。建て主の方にも愛されていることがとてもよく伝わる住宅である。

◎優秀賞

南信州ハートクリニック
(株小川原設計)

講評委員：渡邊徹

このクリニックは、飯田駅から東へ徒歩20分ほどの距離に位置し、飯田市と飯島町を結ぶ県道15号線沿いの開けた場所に建設された。背後の小高い丘に住宅地が広がるこの地に、心臓病や循環器疾患のリハビリテーション設備を有する、地域で唯一の下肢静脈瘤治療が可能なクリニックが開業した。

患者さん中心の診療をコンセプトに、平屋でまとめられたこの施設は、程よいボリューム感を持ち、風景に溶け込む一方、県道からの視認性も高く感じられる。

限られた敷地を有効利用するため、中廊下型のプランを採用し、中廊下により各室を結び付けている。中廊下はハイサイドライトからの自然光と内装材の連続性により、患者さんに安らぎや安心感を与えている。

各室は天井が高く、地元自然素材をできる限り使用した内装材により、医療施設であることを感じさせない豊かで居心地の良い空間を創出している。地域医療に伝える事を目指して建てられたこのクリニックは、地域に密着し、患者に寄り添うあたたかい施設となっている。

◎最優秀賞

北斎館デジタルアートギャラリー「ガラリー」
(株宮本忠長建築設計事務所)

講評委員：吉田賢司

この建築物は、町並み修景された地区で観光客もたくさん訪れる長野県小布施町にある北斎館の新たな情報発信の拠点として、公衆トイレの跡地に新たにカフェを併設するアートギャラリーとして建てられた施設である。

小布施町の「町並み修景」の手法「ソトはミンナのモノ」「ウチはジブン達のモノ」を取り入れ「町と芸術の接点」の在り方を考え、再構築整備された。隣接する北斎館をはじめ、修景された建物群に対して色彩や形態も配慮し、周辺の歴史的町並み景観に自然と溶け込んでいる。

プランについては、アプローチ動線が明確で、トイレ部分、カフェ部分を解りやすくゾーニング分けされている。それでいて目立ち過ぎず、動線上に、さりげなく植栽を配し、そぞろ歩きながら中に向かう。アプローチ突き当たりには開口があり、光によって導かれる手法が絶妙に施されている。建物自体の外観は、景観として周辺と調和して一体となり成立している。テラスゾーンには軒の深い部分が、夏の日差しにも配慮しつつ緩やかに内部ともつながる効果を感じる。2階にはギャラリーが設けられ、大きな開口部からは、景色の移りい。こちらでも、内部と外部の繋がりを感ずる。夜間照明も間接照明などにより修景された地域を配慮した程よい優しい光を投げかけている。施設のネーミングが「ガラリー」ということで風通しのよさをイメージさせ、全体から受ける印象と一致して、コンセプトの一貫性を感じる。

◎優秀賞

Villa Yoshino
(株倉橋建築計画事務所)

講評委員：土屋正明

安曇野、北アルプス山麓の森に建つ貸別荘群である。中央の広場から放射状に配置された3タイプ4棟の三角屋根の作り出す夜景は、白川郷の集落の一部を切り取ったような錯覚を見る者に与える。

森の景観に負荷をかけない最小限のボリュームで最大の空間を具現するため、屋根だけの単純な架構が選択された。その引き締まった空間が、かえって非日常を過ごす隠れ家的安堵感を利用者に与えるだろう。

妻面がデッキに対してオープンな最小タイプでも、4人が宿泊するには十分な広さと機能を備えている。屋根片面解放タイプは居間から広いデッキが連続し、広場と一体となった解放感がある。それから派生した離れと露天風呂を持つ最大タイプは、6人まで利用することが可能だ。利用者のニーズに合わせて多様な形態で森の自然を楽しむことができる。

日常から離れた気心の知れた仲間と過ごせば、大いに心地よい時間となるだろう。

◎最優秀賞

川上村役場交流防災センター
(株エーシーエ設計)

講評委員：土屋正明

川上村は、長野県の東南端に位置し、その名の表すとおり、千曲川の源流域に広がる自然豊かな高原野菜の一大産地である。老朽化した役場と公民館を統合し、既存の場所に防災機能を併せ持つ新庁舎が建設された。

伸びやかな庇の水平線の上に、周囲の山並みに逆らわない寄棟形式の屋根がゆったりと載せられている。深い軒裏には地元産の唐松板が全面に張られ、親しみやすく温もりのある表情をしている。南北に設けられたエントランスとそれを繋ぐ通路により役場と交流防災センターが明確にゾーニングされ、有事には災害対策拠点と避難所にスムーズに移行することができる。また、駐車場が建物の南北に配置されていることで利用者の歩行距離が短く、寄り付きの迷いを低減している。

用途上、全ての利用者、事態に配慮されたユニバーサルデザインがなされている。内部意匠としては地域の原風景や特徴をモチーフとした壁・天井・照明にデザインが施され、それぞれに趣や高揚感のある空間を演出している。省エネルギーにも配慮され、外皮性能を高めるほか、自然光のパッシブな制御、地中熱、太陽光などを利用してZEB Readyを達成している。

時代に求められる機能と性能をコンパクトに納めたいうえで、地域の新しいシンボルとして至高の存在感を持っている。この施設は地域で暮らす人々の未来へ続く希望と、心の拠り所になるだろう。

◎優秀賞

箕輪町防災交流施設
(一級建築士事務所株アーキディック)

講評委員：松村隆一

この防災交流施設は、非常時に誰でも安心して過ごせる避難施設として計画され、百人程度の避難者が三日間生活できる施設となっており、三日分の電気・飲料水も確保されている。子供から大人まで多世代の方々の居場所として、ともに居心地よい空間として計画されている。

リースペースは活動が自由に展開される大空間とされ、家具等で区画できる方式となっている。周辺に配慮した建物として二階部分をセットバックし緩勾配屋根とし、隣地への配慮から窓を小さくし、ガラスも不透明のものとしてある。

外皮(外壁・屋根・床)を高断熱として、夏涼しく、冬温かな建物として、エネルギー消費量を減らし災害時にも少ないエネルギーでの運用を可能としてある。



◎優秀賞

税理士法人飯田会計社屋
(1級建築士事務所アトリエ・アースワーク)

講評委員：松村隆一

諏訪IC西側直近の閑静な場所にある、ゆったりとした土地に建つ事務所建築である。道路に面して余裕のある配置に考慮してあり、落ち着いた趣となっている。庇の出を、枯木方式を採用し深くしてあり、社務空間が多く存在する地方独特な方式が生かされている。平面計画も全体的に余裕を持って配置され事務仕事も無理なく執務できていると思う。又、防災対策にも配慮し、FLを高く設定し、PC用のデータ保存用に屋根裏にサーバーを設置してある。今後ますます進むであろう温暖化による夏季における暑さと、冬季における寒冷地特有の底冷えから、従業員や来客への対策も考慮されており、この建物が長く地域からも大切にされていくものになると考える。

◎会長賞

漆の里やきさわらの家
(川島宏一郎建築設計事務所)

講評委員：土本俊和

文化財保護法上の重要伝統的建造物群保存地区に国から選定された地区が長野県に多くあり、その数は現在日本一である。保存地区に携わる場合、設計に調査を先行させて既存の建物を深く理解する必要があり、その価値を最大限に尊重する必要がある。調査後の設計・施工にはミニマムインタervention(最小限の介入)が求められる。

塩尻市内の平沢という重要伝統的建造物群保存地区に遺存する歴史的建造物を扱った本作品は、建物の保存修理と現代的な利活用とを、美しくかつ控えめに合理的な論理に基づいてバランスよくまとめ上げている。

この二点を成し遂げている本作品は信州の保存地区のこれからの方向性を具体的に指し示す新たな指針である。